

# 『関西武道学研究』 行事報告（発表資料）

## 戦後レジームの教育への影響

### — 武道必修化の背景と今後を再考する —

武庫川女子大学 竹繁諒真

#### 問題の所在と立場の明確化①

- 2012年度の義務教育における武道完全必修化実施以降約、14-5年の時を得て学校教育を取り巻く環境も大きく変化している。  
Ex: 共生, 母国語, 宗教, 隠れたカリキュラム…
- 我が国固有の文化である武道もここ15年で大きな変化がみられる。  
Ex: 柔道のルール細分化と改訂, 剣道不当防具規制
- ⇒ 源流になかったものの介入

#### 問題の所在と立場の明確化②

- 源流・原型になかったものの介入⇒その昔の先人たちはこれを予想できたか？（おそらくNO）
- 武道という一種目、一競技においてここ15年あまりで大きく変化する事象が発生するのであるから、教育という不特定多数を対象とする公の物に変化があっても不思議はない。  
⇒ 今後の行く末においても大きく変化する可能性があるため過去を振り返ることで今後、表面化する可能性がある問題が何であるかを考察する。

#### 戦後レジームに注目する理由

- 複数の先行研究において武道必修化が明記された新法（現行の教育基本法）の改正と戦後レジームとの関係を指摘するものがある。（堀尾2015等）
- 戦後レジームというキーワードが表面化した立役者としては第一次安倍政権（2007）にてスローガンとして「戦後レジームからの脱却」が叫ばれたことに注目できる。

#### 研究課題と分析課題

| 研究課題（大区分）                     | 研究課題に対応する分析課題（小区分）                     | 方法                                                                                 |
|-------------------------------|----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 戦後レジームが学校教育（武道教育）に及ぼした影響を考察する | ①「戦後レジームとはなにか」を政治哲学の側面から分析し内容を精緻化する    | 言説分析を採用する。<br>採用理由：言説分析は、一定の史資料から言説空間の持つ仮想全体像やそこからの史資料の抽出が可能であると赤松は指摘している。（赤松2001） |
|                               | ②武道教育必修化の背景から戦後レジームの存在を見出すことができるのか分析する |                                                                                    |

#### 分析課題① 戦後レジームとは何かを紐解く

- レジームとはなにか…
- 政治哲学の分野では一つの主要なテーマとして扱われる。  
早瀬（2012）は哲学者レオ・シュトラウスのレジーム論から考察。  
⇒ レジームという概念の使用は多岐にわたるがその根源を流れる共通理念がある。
- レジームとはいかなる時代、国、地域であっても、国家や政治社会に正当性を付与する根本原理。

## レジームとは何か

- 早瀬による問い「その政治社会全体でどういった生き方がもっとも重要な価値基準と考えるか根源的な問いへと繋がる」
- ⇒秩序と規範の成立（構成員の連合体）
- ジョンローレンズの思考を借りれば・・・  
「ある連合体（社会）にとっては協力を促しかつ正義（有益）であることがその概念たらしめる一因子」

## 戦後レジームとは？

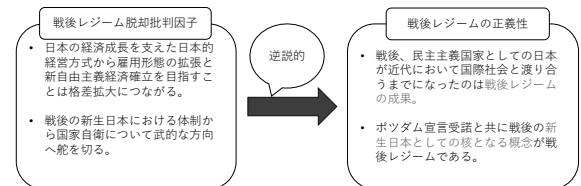
- 「ある連合体においてどのような生き方が重要であり正当性があるとされるのかをしめす根源概念」であると定義
- 戦後+レジーム＝？
- 第二次世界大戦後の日本社会において重視される生き方であり正当性・有益性があるとされる概念

## 戦後レジームの背景

- 戦後、教育においては米教育使節団の介入などで大きな変化が日本におとづれる。  
Ex: 武道教育禁止、国語科規制、地理歴史科規制など  
⇒過去をさかのぼることでアメリカ式教育での軍国主義の否定に揺らぎが生じるため
- なぜアメリカ式教育を強く導入する？  
⇒日本の朝鮮諸国統治時代とは異なる背景  
Ex: 西（1998）日本人の志の封印⇒教育への介入

## 戦後レジームの正義

- 戦後レジームからの脱却が叫ばれるがしかし…
- レジームとは「その時代の重要な生き方であり正義」であったはず…



## 分析課題② 戦後レジーム脱却と武道教育

- なぜ「戦後日本の経済成長をもたらした正義」の戦後レジームから脱却する必要があるのか？
- 国会の質疑応答における総理の言説

政府としては、「二十一世紀の時代の大きな変化についていけなくなっている」戦後レジームを、原点にさかのぼって大胆に見直し、「活力とチャンスと優しさに満ちあふれ、自律の精神を大事にする、世界に開かれた『美しい国、日本』」を目指すこととしている。（内閣衆質一六六第四五七号）

## 戦後レジームは時代についていけない？！

- 武道教育につながるものとして…
- 金（2018）は、必修化の背景として諸外国で働く日本人の存在が起因していると考察。（文科省も近似した見解）

諸外国で日本人にカテゴライズされる人々は日本文化に宗教的・哲学的知見を有していることが当たり前のこととして認識されている。しかし、日本人はサムライや武士道に代表される日本文化への理解が決して充分ではなかったことが表面化したとしている。

- 戦後武道教育において注目しうる学習指導要領の改訂…1956年『高等学校学習指導要領保健体育』⇒柔剣道の選択必修化（男子のみ）

- 13 —